

全国と比較 穴栗っ子の運動能力

全国の小学5年生と中学2年生を対象とした「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が昨年4月から7月にかけて実施されました。この調査は、子どもの運動に関して全国的な状況を把握・分析することにより、子どもの体力向上に向けての検証し、学校における体育・健康の指導改善などに役立てるものです。調査内容は、握力や上体起こし、ボール投げ、持久走など8種目の実技と運動や生活習慣などに関する質問です。今月は調査結果をもとに、穴栗の子どもたちの運動能力の実態についてお知らせします。

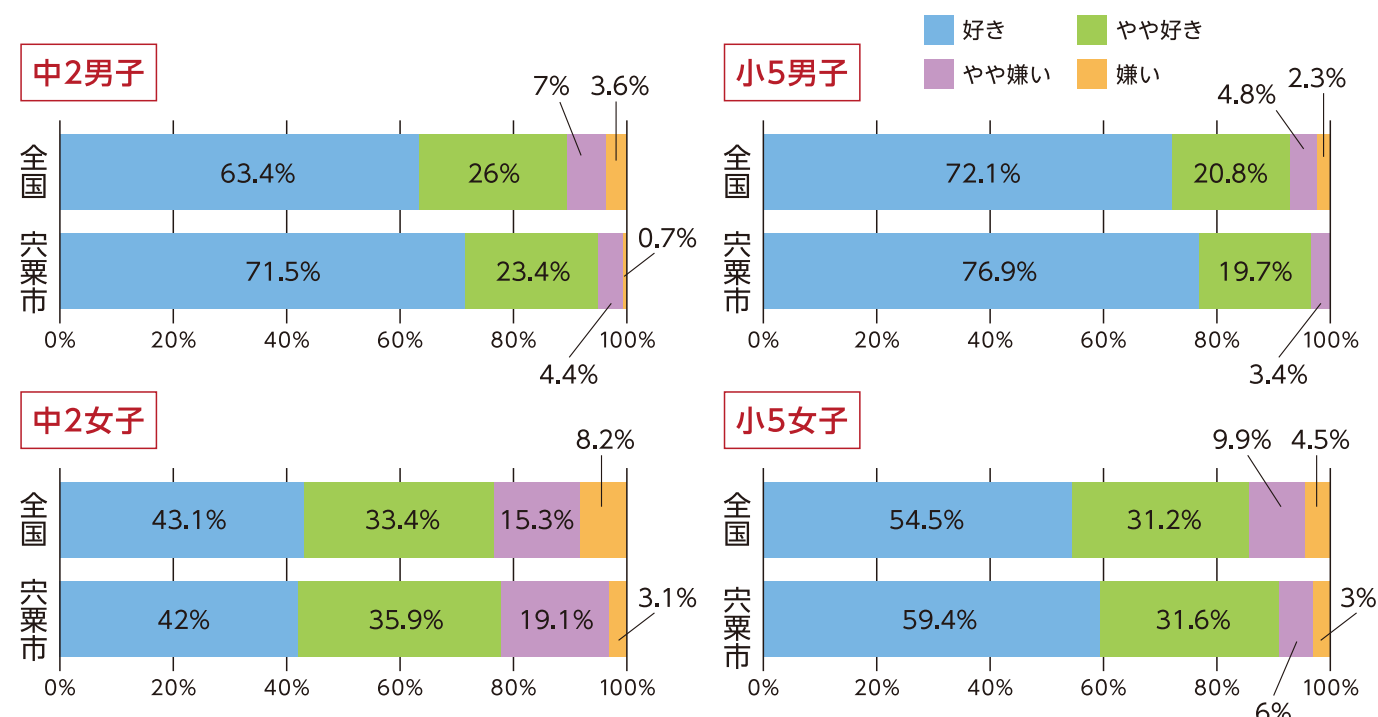
質問調査の結果 運動への意欲は高い

質問紙調査による「運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合」は、小中学校ともに全国より高い結果となりました（グラフ2参照）。

中学校男子、小学校では前年度より「好き」「やや好き」と答えた子どもの割合が増えています。中学校女子では、その割合はわずかに減少しましたが、結果からは多くの子どもたちが運動やスポーツを楽しんでいることがわかります。

また、「体育の授業は楽しい」「体育の授業では、進んで学習に参加している」「体育の授業や体力の向上に、自分なりの目標を立てている」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合も全国平均を上回っていました。運動に対する意欲と体力には関係性がみられ、運動に積極的に取り組む児童生徒ほど、実技調査で高い結果につながっています。

《グラフ2 質問調査の結果》



体力アップにつながる穴栗の学校での取り組み



小中合同で体育の授業を受ける児童ら

“小中一貫”を生かした教育

小中合同体育を定期的に行うことで、小学生は中学生に動きのポイントを教えてもらい、時には手本にしながら運動を行っています。また、交流の場として合同の運動会やマラソン大会を開催している学校もあります。

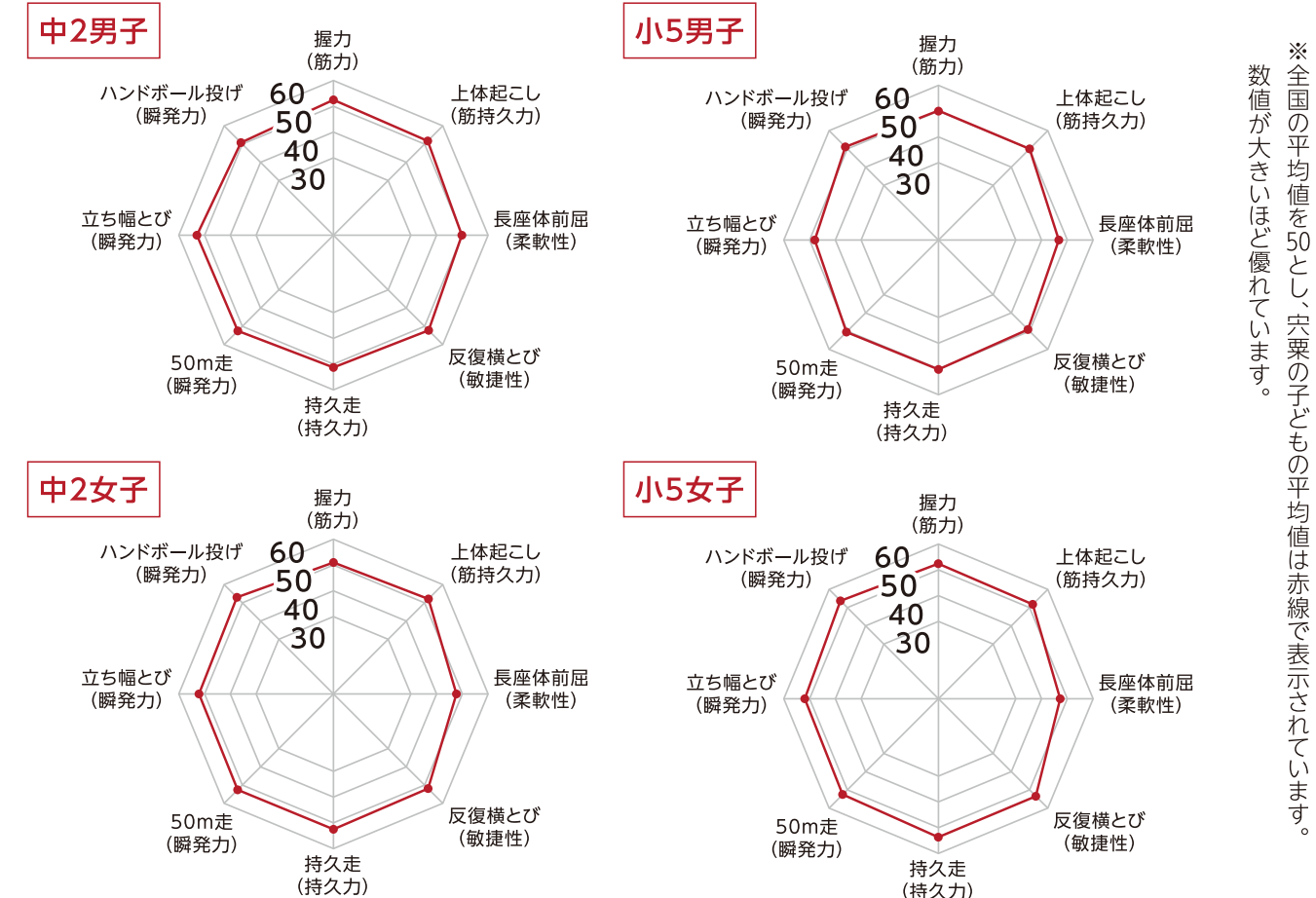
体育の小中交流を行うことで、先生同士が指導方法を学び合い、カリキュラムの交流を通じて、一貫性のある教育にもつながります。

しいたんチャレンジで柔軟性を改善

スポーツテストの結果から、学校ごとに明らかになった課題を改善するために授業や休み時間を活用して「しいたんチャレンジ」に取り組んでいます。例えば、柔軟性をよくするために、準備運動にペアでのストレッチを取り入れ、継続して行うことで、半年間で長座体前屈の記録がスポーツテストの結果より7ポイント程度上昇することがあります。

子どもたちが継続的にしいたんチャレンジに取り組むことで、課題である柔軟性など、運動能力の向上につながっていきます。

《グラフ1 実技調査の結果》



体力テストを行っている児童ら

**実技調査の結果
全国を上回る種目多数**

実技調査(グラフ1参照)では、筋力・持久力・瞬発力の5種目において、小中学校男女すべてで全国平均と同じ、あるいは上回る結果となりました。特に小学校女子、中学校男女では、8種目中7種目で全国平均を上回っていました。

一方、毎年課題となっている柔軟性(長座体前屈)は、全国平均をわずかに下回っています。前年度と比べると、小学校では同様ですが、中学校では男子が4.2ポイント、女子が2.2ポイント改善されています。

引き続き、子どもたちが運動に取り組む「しいたんチャレンジ」などの時間を活用して、課題の克服をめざします。